



TITLE:

# スツィゲティのダンピング理論

AUTHOR(S):

岡倉, 伯士

---

CITATION:

岡倉, 伯士. スツィゲティのダンピング理論. 経済論叢 1937, 45(6): 895-902

ISSUE DATE:

1937-12-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/131028>

RIGHT:

# 東京帝國大學經濟學會 經濟論叢

第 六 號      第 四 十 五 卷

昭和二十年十二月一日發行

## 論 叢

資金の増減伸縮の機構……………經濟學博士 小島 昌太郎  
社會的文化的變動の形式……………文學博士 米田 庄太郎  
資本主義の純粹理論……………文學博士 高田 保馬

## 時 論

國稅の部分的改正……………經濟學博士 汐見 三郎

## 研 究

ナチス政策と獨逸社會保險の政革……………經濟學士 中川 與之助  
明治維新の經濟的意義……………經濟學士 堀江 保藏  
再保險の經濟的本質……………經濟學士 佐波 宣平  
立地理論の一展開……………經濟學士 菊田 太郎

## 說 苑

ゲルストナーの經營分析論……………經濟學士 岡部 利良  
スツイゲテイのダンピング理論……………經濟學士 岡倉 伯士

## 附 錄

新着外國經濟雜誌主要論題  
本誌第四十五卷總目錄

（禁 轉 載）

# スツイゲテイのダンピング理論

岡倉 伯士

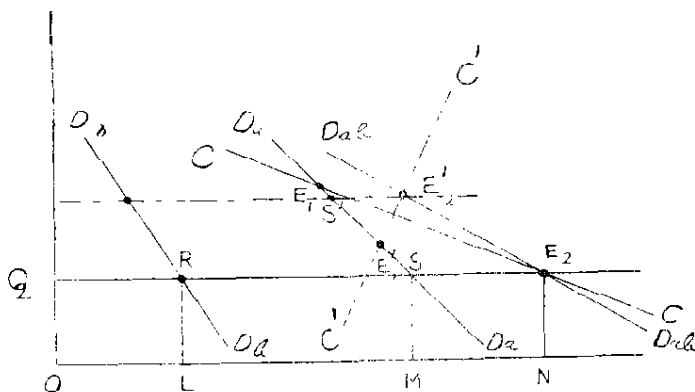
—

獨占的貿易現象としてのダンピングに對する理論的關心は、既にシュンペーター、ヴァイナー、H・マイヤー等によつて拂はれた。しかしその精緻な展開は、デーブリン、インテマ、ハーバラーを経て、スツイゲテイに於て頂點に達してゐる。ダンピング理論の今日の水準を知るためには、一通りこれらの人々の分析を窺ひ知らねばならないのであるが、こゝにはその餘裕を持たない。こゝではたゞ主としてインテマ及びハーバラーに立脚しつゝ、しかも『獨自の解決』を試みてゐるスツイゲテイの理論の<sup>1)</sup>骨子を紹介し且つ批判したいと思ふ。かくすることによつてインテマ、ハーバラー及びスツイゲテイの理論が統一せられ、ダンピング現象のより正確な分析が可能になると思ふ。

スツイゲテイの『解決』はインテマ及びハーバラーに

スツイゲテイのダンピング理論

對する批判乃至は修正である。それ故に吾々は先づ必要な限りに於て、インテマ及びハーバラーの理論<sup>2)</sup>に觸れて置かねばならない。インテマは解析的及びグラフ



的方法を用ひて、ダンピングの究局的均衡條件を規定してゐる。こゝでは彼のグラフの説明的みを引用すれば充分であらう。

先づ國內市場及び外國市場の限界賣上函數並に當該獨占企業の限界費用函數がいずれも遞降的直線で示されるとする。(圖形参照)  $D_1$

$D_2$  は國內市場の限界賣上曲線、 $D_1$  はダンピング限界賣上曲線、 $C$  は限界費用曲線である。獨

- 1) Szigeti: Monopolpreis und Dumping. Z. f. N. Bd. VI, Heft 4, (1935), S. 514 ff.
- 2) Vnthena: The Influence of Dumping on Monopoly Price J. P. E. Vol. 36 (1928) p. 687 f. Haberler: Der internationale Handel S. 228 f.

占者は、 $Q_{E_1}$  (＝國內販賣上及ダンピング販賣上) ー  $Q_{E_2}$  (＝國內販賣上) を極大にしようとする。この極大の條件式は、 $Q_{E_1} - Q_{E_2} = 0$ 、即ちグラフ的には綜合限界販賣上曲線と限界費用曲線との交點の横座標  $Q_{E_1}$  によつて示される。 $Q_{E_1}$  は獨占者の總利潤を極大ならしめる總販賣量であり、それは  $Q$  (ダンピング販賣量) と  $Q_S$  (國內販賣量) に分配される。この究局的均衡に於ては  $RL = SM = E_1 N$  である。即ち究局的均衡の條件は、ダンピング限界販賣上、國內限界販賣上及び限界費用の一致として規定される。國內販賣量及びダンピング販賣量が知られれば、ダンピングの下に於ける國內價格及びダンピング價格は、それ／＼國內の需要函數及び外國の個別的、需要函數との關係から直接に決定される。遞降的限界費用の下でのダンピング輸出は、國內價格の下落及び國內販賣の増加を齎す。封鎖的獨占販賣に於ては、國內販賣量は  $E_1$  の横座標で示される。それはダンピングの下に於ける國內販賣量  $O M$  よりも小である。國內販賣量の増加は、遞降的な國內需要曲線を豫想す

る限り、國內價格を下落せしめる。遞昇的限界費用曲線の場合にはダンピング前の國內販賣量は  $E_1$  の横座標で示される。それはダンピング後の國內販賣量、即ち  $S'$  の横座標よりも大である。従つてこの場合にはダンピングは、國內販賣量の減少及び國內價格の騰貴を招來する。不變の限界費用の下でのダンピングは、國內市場に對して何等の影響をも及ぼさない。

以上はインテマの理論の主要であるが、そこでは單に、究局的均衡の狀態のみが描寫されてゐるにすぎない。これに對しハーバラーの理論の特徴は、適當なグラフ的方法を用ひて、ダンピングの進行を經過的に跡づけてゐる點に求められる。彼は遞減的限界費用を假定し且つ封鎖的獨占到に於けるオプティマールな國內販賣から出發する。このオプティマールな國內販賣上よりも、外國販賣の限界販賣上の方が大である限り、獨占者は差當り國內販賣を擴張せずに、輸出のための追加的生產擴張を行ふ。生產擴張はダンピング利潤が相對的な極大値をとるまで、従つて外國販賣の限

界賣上と限界費用との最初の一致點が到達されるまで続けられる。しかるにこの外國販賣のための追加的生産擴張は、限界費用を舊の國內販賣の限界賣上（クールノー點に照應する限界賣上）以下に低下せしめる。かくして始めて國內販賣の擴張が可能になる。國內販賣の擴張もまた、國內販賣の限界賣上と限界費用との第二回目の一致點（第一回目の一致點はクールノー點である）まで行はれる。しかるに國內販賣の擴張は、限界費用を舊の外國販賣の限界賣上以下に低下せしめる。かくして再び外國販賣をより一層擴張することが可能になる。要するに遞減的限界費用は國內販賣と外國販賣との交互的擴張を可能ならしめる。そしてこの過程はインテマの指摘してゐる通り、外國販賣の限界賣上、國內販賣の限界賣上及び獨占企業の限界費用が一致する點に於て、究局的均衡に到達する。

スワイゲティによれば、ダンピングの究局的均衡の條件をすべての場合に於て、國內及び外國限界賣上並に限界費用の三經濟量の一致として規定することは許

されない。三經濟量の一致は單に特定の條件、即ち不變の限界費用の假定の下に於てのみ妥當する。これに反し『たえず遞昇乃至は遞降する限界費用曲線に於ては、獨占販賣乃至は輸出の最後の單位に歸屬する限界費用は、當然に不均等でなければならない。それ故に遞降的乃至は遞昇的限界費用曲線の下に於ては、ダンピング限界賣上、國內限界賣上及び限界費用の一致を均衡の條件として定式化することは不可能である。』彼はこの理由から遞降的及び遞昇的限界費用の下に於ける均衡の條件を次の様に規定する。

- 1、供給さるべき諸市場に於ける限界賣上的一致。
- 2、この價值からの限界費用の背離が極小でなければならない。

しかし乍ら國內市場に及ぼすダンピングの作用については、スワイゲティもまたデーブリン、インテマ、ハーバラー等と同様の見解であることを豫め指摘して置く。

## 二

先づハーバラーに倣つて遞減的限界費用を假定し且つ封鎖的獨占到於けるオプティマールな販賣から出發する。かゝる事情の下でダンピングが開始せられるためには、第一にダンピング販賣が収益的でなければならぬ。換言すれば外國販賣の限界賣上が限界費用よりも大でなければならぬ。また第二に封鎖的な獨占オプティマムから出發する限り、獨占者が國內販賣をそれ以上に擴張すれば、國內販賣の限界賣上は限界費用よりも小となる筈である。いま外國販賣の限界賣上を $de$ 、國內販賣の限界賣上を $m$ 、限界費用を $dk$ で示せば、ダンピングが開始されるための條件は、(一)  $de - dk > 0$ ; (二)  $dm - dk < 0$  である。ダンピング輸出のための生産が進行するにつれて限界費用が低下し、 $dm - dk > 0$  となり國內販賣の収益的な擴張が可能となるにしても、 $(de - dk) > (dm - dk)$  或は簡單に  $de > dm$  である限り、國內販賣を擴張することなしにダンピングのための追加的生産が行はれる。しかしダンピング販賣が繼續されるにつれて、外國販賣の限

界賣上が低下し、やがて  $de < dm$  となる。かゝる瞬間が到來するとき始めて、ダンピング輸出を中止し國內販賣を増加する方が有利になる。ハーバラーは不正確にもダンピング輸出の中止せられる時點を  $de = dk$  即ち外國販賣の限界賣上が限界費用に一致する點として規定した。しかしかゝる時點が到來する以前に、外國販賣の限界賣上よりも國內販賣の限界賣上の方が大となり、從つて國內販賣の擴張がより有利となる瞬間が存在する筈である。それ故に『ダンピング開始前の量を國內市場に供給した後の生産の分配は、獨占販賣乃至はダンピング販賣への一單位の追加によつて獲得される限界賣上が、極大となる様な規準に從つて行はれる。』そしてこの分配は、『兩市場の限界賣上が等しくなり、且つ限界費用がこの價值から極小の背離を示す様になるまで繼續される。』究局的均衡に於ける獨占販賣量及びダンピング販賣量が確定されれば、ダンピング價格及び國內獨占價格は、外國の個別的、需要函數及び、國內の需要函數との關係に於て一義的に決定され

る。遞減的限界費用の下でのダンピングは、國內販賣を擴張せしめるから、ダンピング後の國內獨占價格はダンピング前に比して下落する。

次に不變の限界費用を假定しよう。こゝでは國內販賣の限界賣上と外國販賣の限界賣上との最初の一致點は、同時に限界賣上と限界費用との一致點(究局的均衡點)である。従つて國內販賣を増加すること(遞減的限界費用の場合)、乃至は國內販賣を減少し外國販賣を増加すること(遞増的限界費用の場合)によつて、總利潤を増加し得る可能性は與へられない。國內販賣と外國販賣との分配は單純に、不變の限界費用、外國販賣の限界賣上及び國內販賣の限界賣上の一致  $(p_{\text{dom}} = p_{\text{for}})$  と言ふ規準に従ふ。従つてダンピング前及びダンピング後に於ける國內價格及び國內販賣量は不變である。スツイゲティによれば、インテマ及びハーバラーによつて規定された究局的均衡の條件は、かゝる特殊な前提の下に於てのみ正確に妥當する。

更に遞増的限界費用を假定しよう。こゝでは生産の

擴張はより高い限界費用の下に於てのみ可能である。従つて獨占者は差當り生産擴張の利益を覺えない。彼の關心は、先づ外國販賣の限界賣上と國內販賣の限界賣上とを比較することによつて、販賣の合目的な分配を行ふことのみに注がれる。彼は國內販賣の減少に伴ふ國內賣上の減少分がダンピングによつて齎らされる賣上増加分よりも小である限り、生産擴張を行ふことなしに國內販賣を減じ、その數量をダンピングする。クールノー點に照應する獨占販賣量を  $m$  とし、國內販賣の減少分を  $a$  單位とすれば、

$$p_{\text{dom}} - p_{\text{for}} = \frac{a}{m} > 0 \text{ である限り、 } m \text{ 番目から}$$

行かうちに、國內賣上の減少分とダンピング賣上とが等しくなる時點が到來する。こゝで販賣の分配は一應の均衡にする。しかしその均衡は不安定である。何故ならなほ利潤増加の可能性が残されてゐる限り、獨占者は生産の擴張によつてその可能性を實現しようとする。

るから。かくてこの均衡點が到達されるや否や、獨占者は單純な販賣分配の政策から、追加的生產擴張の政策に轉ずる。追加的生產量の販賣もまた、一單位の販賣によつて獲得される限界賣上が極大になる様な方法で行はれ、かくして再び國內販賣の増加が齎される。しかしこの國內販賣の増加は、單純な販賣分配政策によつて招來された國內販賣の減少分を完全に補ふことは出來ない。換言すればダンピング後の國內販賣量はダンピング前のそれに比して減少する。何故なら『ダンピングは限界費用曲線の低い部分が必要としたために獨占限界賣上曲線と組合される限界費用部分は、いまやダンピング前よりも一層急勾配となるから。』従つて國內限界賣上曲線と限界費用曲線との交點がより一層縱軸に接近するからである。しかしこゝでもまたスツイゲティは、國內限界賣上、ダンピング限界賣上及び限界費用の一致を究局的均衡の條件と考へてゐるのではない。彼に於ては遞増的限界費用の下での究局的均衡の條件もまた、兩市場の等しい限界賣上が『限界

費用から極小の背離をなすこと』である。けれども限界費用曲線が急勾配になり、國內限界賣上曲線との交點が縱軸に接近すれば、スツイゲティの意味に於ける究局的均衡點もまた縱軸に接近する。従つて遞増的限界費用の下に於けるダンピングは、國內販賣の減少及び國內價格の騰貴を招來することになる。

### 三

以上に於て吾々は、インテマ及びハーバラーの理論とスツイゲティの理論とが究局的均衡條件の規定に於ては相違してゐるにかゝらず、國內市場に及ぼすダンピングの作用に關しては、同一の結論に到達してゐるのを知つた。ダンピングの經過的跡づけに關するスツイゲティの分析は、ハーバラーのそれよりもより正確である。それにもかゝらず吾々は、スツイゲティの理論を無條件に受け容れることを得ない。スツイゲティによれば究局的均衡の條件は、兩市場の限界賣上の一、及びこの價值からの限界費用の背離が極小であることである。けれども容易に知られる様に、限界費



用が限界賣上から背離してゐる限り、従つてなほ限界利潤が獲得されうる限り、獨占者に對して總利潤増加の餘地が残される。それ故に限界費用が限界賣上から幾分でも背離してゐる限り、かゝる背離の状態を究局的均衡状態と見ることは出来ない。そこで吾々はスツイゲティの説明を修正された形で提出しよう。

遞減的限界費用を假定する。獨占者の關心するのは限界賣上そのものではなくして、限界利潤である。具體的に言へば總利潤増加の可能性である。クールノー販賣量から出發する場合、獨占者は差當りダンピング輸出のためにのみ生産増加を行ふ。ダンピングの進行につれて外國販賣の限界賣上及び限界費用が次第に低下する。<sup>3)</sup>やがて外國販賣の限界利潤、即ち低下した外國販賣の限界賣上と低下した限界費用との差が國內販賣の限界利潤、即ちクールノー販賣の限界賣上と低下した限界費用との差に一致する瞬間が到來する。しかし勿論獨占者はこの時點に於て生産擴張を中止しはしない。何故ならなほ限界利潤が存在するから。獨占者

はいづれの市場のために生産擴張を續けるか。スツイゲティにはこの説明が缺けてゐる。吾々はいふことが出来るであらう。最初の限界利潤均衡點を超えての生産擴張が國內市場のために行はれるか、外國市場のために行はれるかは、その點に於ける兩市場の限界賣上曲線の弾力性に依存すると。若しこの弾力性が國內市場に於けるよりも外國市場に於て大であるならば従つて一單位の追加的生産量の販賣によつて獲得される限界賣上が國內市場よりも外國市場に於てより大であるならば、獨占者は外國販賣を擴張するであらうし反對ならば國內販賣を擴張するであらう。こゝに注目すべき問題が生ずる。假りに最初の限界利潤均衡點に於ける外國市場の限界賣上曲線の弾力性が、その點に於ける國內市場の限界賣上曲線の弾力性よりも大であり、従つて獨占者は最初の限界利潤均衡點を超ゆる過剩販賣を外國市場に對して行ふとする。この過剩販賣は外國市場の限界賣上及び限界費用をより一層低下せしめ、同時に外國販賣の限界利潤を、最初の限界利潤

3) しかし限界賣上の低下率は限界費用の低下率よりも一般に大でなければならぬ。さもなければ兩曲線は交はらず、従つて均衡は成立しない。

均衡點に於ける國內販賣の限界利潤以下に低下せしめる。従つて國內販賣の擴張が開始せられるが、しかし國內販賣の擴張は最早スウィゲティの信する如く限界賣上、均等の法則には従はない。何故なら新しい限界賣上、均衡點まで國內販賣が擴張され、ば、それに應じて限界費用がより一層低下し、従つて新しい限界賣上、均衡點に於てもなほ、國內販賣の限界利潤は外國販賣の限界利潤よりも大であるから。それ故に國內販賣は新しい限界賣上、均衡點以上に擴張せられ、やがて新しい限界利潤、均衡點が到達される。新しい限界利潤、均衡點に於ては、外國販賣の限界賣上と國內販賣の限界賣上とは不均等である。従つてこの點に照應する外國販賣のための限界費用と國內販賣のための限界費用とも不均等である。しかしこの困難は過剩販賣を充分に小さくすれば取除かれる。具體的に言へば單位量を充分に小さくとればよい。また新しい限界利潤、均衡點に於ける限界利潤は、最初の限界利潤、均衡點に於けるそれよりも小でなければならぬ。何故なら限

界賣上の低下率は限界費用の低下率よりも大でなければならぬから。さもなければ限界賣上曲線と限界費用曲線とは交はらず、従つて均衡は成立しない。かかる過程の進行につれて兩市場から得られる限界利潤は益々小となり、そして究局的均衡は限界利潤が消滅する瞬間、従つて兩市場の限界賣上が限界費用に一致する瞬間に於て到達される。それ故に限界利潤、均衡點を超えての販賣擴張を充分に小ならしめる限り、吾々はインテマ及びハーバラーと共にダンピングの下に於ける究局的均衡の條件を限界費用、外國の限界賣上及び國內の限界賣上の一致として規定して支障へない。

以上の考察は限界費用が遞昇的である場合にも、また不變である場合にも適用することが出来る。たゞ遞昇的限界費用の場合には、追加的生産の開始以前に單純な販賣分配政策が介入することを注意せねばならない。